

踏まれ踏まれても生き返る

NO.35 2025.7.18

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

たまには、行政のみどりの施策の中にも 評価したくなる場所もある

いつもお役所のみどりの施策に文句ばかりたれていますが、たまには「へーっ、よくやっているじゃないの」と言える場所もあるものです。今回は、その2例をご紹介します。

環七通り・北区上十条四丁目の緑地帯



東京都23区のエリアの外側を取り巻くように通っている都道環状七号線＝都道318号は、今から70年前は板橋区内では中山道＝国道17号線大和町交差点までしか通っていませんでした。そこから西へ、板橋区大和町・双葉町を横切って練馬区→中野区に至る一帯はまだ田園地帯が大半でした。

1960年に開催された東京オリンピックに合わせて全線開通したのですが、当時、高校生だったわたしは、工事が終わってもまだ未開通だった無人のこの道路の真ん中を自転車を全速力で走らせて稲荷台の自宅から上板橋の学校に通っていたものです。

だから、この道路は戦後経済成長期

にできた比較的新しい道路というイメージがあるのですが、計画そのものはものすごく古くて、戦前の旧東京市が1927(昭和2)年に策定した「大東京道路網計画」に盛り込まれていたものでした。

計画策定から40年近くも全線開通とならなかったのですが、前述のように北区赤羽方面から武蔵野台地を登ってきて板橋区の中山道と交わる地点までは戦前には開通していたのです。

なぜ、この部分だけで工事が止まっていたのか？ 中山道の板橋宿東側に流れる石神井川一帯は江戸時代の加賀前田藩下屋敷跡がそっくりそのまま明治政府の陸軍弾薬製造工場になって、それに隣接して滝野川方面には被服廠が、赤羽台方面には兵器廠と練兵場が設置され、この辺りは広大な軍事施設集中エリアだったからです。戦時体制づくりが最優先の時代の中で、この軍の枢要地帯と都心を結ぶために東側は岩槻街道、西側は中山道から連結する軍用道路としてこの一帯だけを整備すれば、あとはどうでもよかったのでしょう。

上の写真は、その戦前から整備されていた部分の一角、北区の王子第三小学校前の道路の向かい側・上十条四丁目ですが、100m近くにわたってかなりの樹齢のクスノキの大木が生い茂っている「森」があります。総延長約52.5 kmの環七道路でも、沿道にこれほど大きなみどりのかたまりがある場所はないでしょう。このみどりのかたまりができた由来は、近くにある小さな神社・御嶽神社の由来書から推察できます。つまり、御嶽神社は以前は王子第三小学校門前にあったのですが、1941(昭和16)年「環七の新設に伴い当地へ移転」とあります。となると、このクスノキの森はもともと御嶽神社のあった場所で、道路建設のために用地が削られる軍事優先の時代でも、残りの元々の神社用地はかなりの部分が「元の神社の杜(もり)」として大事に残されてきたと考えても不自然ではありません。(裏面につづく)



東京都が設置した案内板（写真左上）はこの歴史や経緯には一切触れていませんが「緑化」の必要性はきちんと訴えています。みどりの鉄パイプ柵で囲われたこの緑地帯の奥を覗くと、写真右上のように、もともとの緑地帯の境界を標（しる）す植え込みがあり、そこからさらに歩道側に緑地帯を拡幅してみどりのかたまりを増やしてきている様子がうかがえます。新宿でプロジェクトマッピングに精を出している小池知事には「都も緑化事業に力を入れてきたことがあるのだよ」と知ってもらいたいですね。

板橋区栄町 全草完全除伐の草刈りが行われない子どもの遊び場



前立腺がんの疑いで都立豊島病院に通い始めたのが7年前からですが、当時から通院コースになっているのが栄町のまちなかの一角にあるこの草っ原。板橋区が都から借り受けた土地ということですが、木村の推論では「一時的な利用」の土地なので区の制度としての公園整備はできないのでしょう。名称もなくただの「子どもの遊び場」として維持しているのですが、ちゃんとトイレと水飲み場を設置していて、でも、ちゃんとした公園ではない分、ちゃんとした草刈りは行われず、広場にはいつも青々と草が生えています。天気の良い日は保育園の子どもたちが遊びまわっていて、とっても良いムード。

公園だと「遊具等を設置し、花壇を作って植栽をして、草刈り管理もしなければならない」のに対して、借り物の土地ならば「公園ではないから草刈りもほどほどに」で済むわけで、区が借り物の広場を増やしていけば、「みどり豊かなまちづくり」ができるのだという実証例かもしれません。



アサガオ ヒルガオ科の仲間 2 種

Wikipediaによるとアサガオは日本で最も発達した園芸植物で、古典園芸植物とされています。

孫が学校で栽培しているアサガオの余った苗を持ち帰りました。ひと晩バグに入れっぱなしで萎（しお）れていましたが、我が家の玄関先プランターで復活・開花（左）。大輪です。右は環七の街路の垣根に絡んでいた、多分マメアサガオ。直径30mm。

